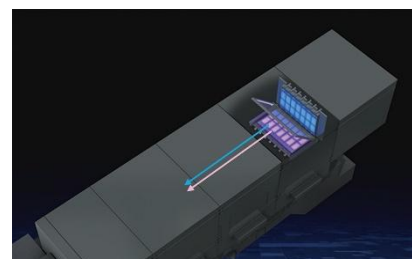
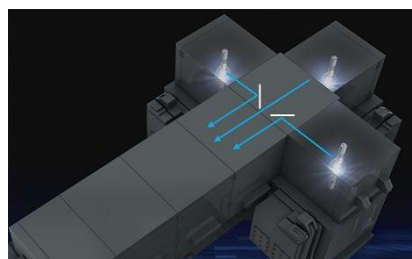


フラットパネルディスプレイ（FPD）露光装置向け LED 照明オプションを発売 生産性向上と環境負荷低減に貢献

キヤノンは、第 8 世代ガラス基板※¹に対応した FPD 露光装置「MPAsp-H1003H」（2022 年 7 月発売）向けのオプション※²として、従来の水銀ランプに代わり LED 光源を採用した LED 照明オプションを 2026 年 9 月上旬に発売します。



MPAsp-H1003H



従来の水銀ランプ方式（左）と比べ、光源ユニットを 3 基から 1 基に集約（右）

近年、ディスプレイ製造では、生産性に加えて環境対応も求められています。新たに発売する LED 照明オプションは、従来水銀ランプを使用していた「MPAsp-H1003H」の光源に LED を採用することで、光源の高照度化や長寿命化、消費電力削減に寄与します。キヤノンは今後、LED 照明オプションの対応機種拡充や、顧客に導入済みの装置の光源を LED にアップグレードする有償サービスを進め、新設装置、既設装置どちらにおいても、生産性向上と環境負荷低減に貢献していきます。

■ 高照度化によるタクトタイム短縮と約 20 倍の光源長寿命化により生産性向上に貢献

LED 光源の採用により、従来の水銀ランプに比べて、照度を 40% 以上※³ 向上させ、タクトタイムの短縮が可能です。また、従来 3 基必要だった光源ユニットを 1 基に集約しました。さらに、光源の寿命が、従来の 1,000 時間から 20,000 時間※⁴ に伸びました。光源交換の頻度を抑えることで、交換作業に伴う装置停止時間の低減を図り、ディスプレイ製造ラインの安定稼働を支えます。

■ 消費電力削減により装置運用時のコスト削減に寄与

照明ユニットの消費電力を、従来と比べ 65% 以上※⁵ 削減します。これにより、露光装置全体では 10% 以上の低電力化を実現し、ランニングコストを抑えます。

■ 水銀廃棄量の削減により環境負荷低減に貢献

露光装置 1 台あたりの水銀廃棄量を年間 1.0kg 以上削減※⁶ します。低消費電力化とあわせて、装置運用における環境負荷低減に貢献します。

※¹ 2,200×2,500mm サイズのガラス基板で、現在は主にテレビ用ディスプレイのパネル製造に用いられる。

※² 新設装置向け。既設装置向けは今後展開予定。

※³ キヤノン指定の水銀ランプ照度仕様と LED 光源照度仕様の比較。

※⁴ 標準運用時の光源寿命を水銀ランプと LED 光源で比較。

※⁵ 従来の水銀ランプ運用時の最大消費電力と LED 光源運用時の最大消費電力の比較。

※⁶ 装置 1 台あたりの水銀ランプ使用本数／年 と水銀ランプ 1 本に含まれる水銀含有量より算出。